

## 将来について

城山中学校 三年 川合 陽向

私は、将来俳優になりたい。この夢は、小学五年生の時にうつすら思い描いていた。私はよく「俳優になりたい」と人に言うと、「無理でしょ」や「何千人もいる中で一握りしか有名にならないよ」などと色々言われる。しかし私は、良い意味で怖いもの知らずなのではないかと思っている。他の人からしてみると、無理だと思う事を、怖いもの知らずの私は、なぜか挑戦したくなる。そんな変わっている私は、人と違う事をしたくて実家の東京、親元を離れて小田原の生活寄宿塾に寄宿をした。寄宿を始めたのは、中学一年生からだ。が寄宿塾との関わりは小学一年生の頃からだ。そこで私は、小学六年生の頃に、東京デスロックという劇団とのワークショップに参加して、私は成長したと感している。そして、自分の道が切り開かれたきっかけだと実感している。何ヶ月もグループの皆と練習をしていくうちに、演技をする楽しさに気づき、私の心に火がついた。公演当日、何人も知らない観客でにぎわっていた。開演すると、一気になぎわいがおさまり、緊張した空気に包まれていた。公演が終わると私達は大きな達成感と満足感で満たされた。この瞬間、私は将来、俳優になろうと決めたのであった。

中学生になり、私は海外で俳優活動をしたいと思い始めた時、私は親に言われたことがある。それは、「目的が俳優になってはいけない。」という言葉だ。この言葉を聞いて、よく考えた。「私の目的は何なのか。」を。すると私は、「ふと思いついた。私の目的は、「人を感動させること」だ。そして、「俳優」というのは、その目的を成しとげるための「手段」なのだ。人を感動させるには色々な方法があると思う。その中で私は、「俳優」を選んだ。これから、高校・大学へ行くうちに自分の将来の夢は変わってくるかもしれない。でも、自分の目的は「人を感動させること」なのだといつまでも忘れずに、自分の道を選びたいと思っている。私は今、中学三年生で、高校の事をよく考えた。海外の高校や英語科がある高校など色々、親や寄宿塾の塾長ともよく相談した結果、私は家の近くの高校を志望することになった。海外に行くために私は、英語に特化している高校に行きたいと思ったのだが、海外に行くこと英語を話せるのが基準のため、英語は自分で勉強し、高校では日本についてもっと知る必要があるというのが理由だった。私は、本当に同感した。そして、将来の夢に向かって海外経験もしたいと思っている。日本と違う文化にふれる経験は将来の財産になる。私は、俳優という仕事は経験がとても大切だと思う。なぜなら、経験しないと分からない事や悲しい感情、楽しい、うれしい感情も、経験しないと得られないと思っている。俳優は、その役になりきる必

要がある。そのために、私は小さい頃から率先して物事に取り組んでいる。そして、親元を離れたたり、色々な経験をさせて頂いた親にも本当に感謝している。親は、自分が寄宿をしたと言った時、とても寂しい気持ちだったと思うが、私の将来などのために、勇気を出して大きな決断をして頂いたと思う。私も将来、子どものために自分が寂しい思いをしても、大きな決断ができる大人になりたい。そして、子どもの夢を精一杯応援できるような親になりたい。